

第 25 回日亜経済合同委員会 概要報告

1. 期 間：2018年5月28日（月）

2. 場 所：アルベアール・パレス・ホテル（ブエノスアイレス市内）

3. 出席者：総勢275名

〔日本側〕小林健 委員長（三菱商事(株)取締役会長）はじめ66名

〔亜国側〕アンヘル・マチャード 委員長（Griensu S.A. 社長）はじめ209名

4. 結果概要：

第25回日亜経済合同委員会は、2018年5月28日（月）に両国外交関係樹立120周年の記念行事のひとつとして開催された。急激なペソ安による亜国経済の停滞も懸念される中、G20開催国となる本年を世界に開かれたアルゼンチンへの飛躍の1年とすべく尽力しているマクリ政権に対し、自由貿易・開放政策の堅持を訴える活発な議論が展開された。

会議は「(日亜関係の) 現在と未来」というテーマのもと、日本とメルコスール諸国とのEPA推進をはじめとするビジネス環境の改善、IoT・AI、資源、エネルギー、アグロインダストリーなど有望分野における両国連携の推進について議論がなされた。

昼食会に参加したミケッティ副大統領からは、両国の経済関係の拡大と深化に関する可能性と課題について講演いただいた。また、会議に参加したエッチェベレ農産業大臣からは7月に解禁の見込みとされるアルゼンチン産牛羊肉をはじめとする農産品貿易の活発化と可能性に関する発表、トリポディ投資促進庁長官、メイラン鉱業副大臣より、投資への期待と鉱業における可能性等についてスピーチがあった。

第1回全体会議では当会議のメインテーマの一つとして、加瀬 経団連中南米委員長（双日特別顧問）から当委員会および日商・東商が経団連と連携して取り組む日本メルコスールEPA推進に関する発表があり、同協定に関して、他のスピーカーや会場との活発な議論が行われた。

最終全体会議では、日本メルコスールのEPA交渉の早期開始や、両国の投資協定、租税条約の早期締結を両国政府へ求める共同声明を採択し、会議後、両委員会から両国政府へ提出した。

5. セッション別会議概要：

(1) 開会式・祝辞

ホルヘ・ディ・フィオーリ・アルゼンチン商業会議所会頭と小林健・日亜経済委員会委員長（三菱商事(株)会長）の開会挨拶の後、福嶋教輝駐アルゼンチン日本国大使により「日アルゼンチンの外交関係樹立120周年の年の開催は大いなる喜び」であり、「合同委員会における議論を通じて、両国間の貿易・投資環境が一層改善され、経済関係が大いに深化することを心から期待する」との安倍首相の祝辞が代読された。

ついで、ギジェルモ・ダニエル・ライモンディ外務副大臣より、120周年を迎えた両国関係につきこれだけ長く強い関係を築いてきたことを評価し、委員会が、両国の関係強化に貢献してきたことを高く評価すること、そして「アルゼンチン



開会式の様子

との FTA が早期に交渉できるよう期待している」とのアルゼンチン共和国大統領のメッセージが伝えられた。

(2) 第1回全体会議「ビジネス環境の改善、日本メルコスール EPA」



加瀬 中南米地域委員長のスピーチ

シュンコ・ロハス工業生産省次官より、世界的に孤立した 15 年の後、現政権がマクロ経済運営、対外開放政策等の正常化を図っている現状につき披露。外国投資を促し、日本メルコスール EPA を促進したいこと、e コマースや自動車、エネルギー等々に投資有望分野があり、日本の投資への期待を語った。

日本経団連中南米地域委員会委員長、双日特別顧問の加瀬豊氏からは、経団連、日商など経済界が JETRO や現地商工会議所と協力して早期実現に向け検討を進める日本メルコスール EPA への期待につきアンケートに基づき報告がされた。地域の高い優位性の一方で、存在する様々な課題解決のため「物品貿易、投資・サービスの高い水準で

の自由化と、広範なビジネスルールを整備する包括的で質の高い内容の EPA」への期待が披露された。

次に、米州開発銀行アジア事務所長の石井一郎氏がファシリテーターを務め、「日本メルコスール EPA ーメリットとオペレーション」につき 2 名からプレゼンテーションが行われた。

JETRO ブエノスアイレス事務所長の紀井寿雄氏は、亜国日本商工会議所の視点から意識調査の結果を披露、亜国進出企業の 90% が日本メルコスール EPA の必要性を感じていること、主にメルコスール地域との EPA を推進する EU、韓国などの国に対し劣後しないように、また中南米で存在感を増す中国に EPA 締結で一層先行されないようにとの思いが強いことを報告した。

トヨタアルゼンチン社長（亜側副委員長）のダニエル・エレロ氏は、両国・地域経済の持つ相互補完性は、他国地域間よりも高く、貿易投資は未開発の分野において優位性と大きな可能性を持ち、EPA は短期的に貿易を増加させ、中期的に日本企業進出と技術移転促進の効果をもたらすと発言した。

最後に特別講演として、アルゼンチン投資・貿易促進庁長官ファン・パブロ・トリポディ氏から関連したスピーチが行われた。アルゼンチンでは、インフラ、製造業、農業、サービス分野に投資機会があると紹介した上で、日本メルコスール EPA や投資協定の締結で、日本企業の投資機会はさらに増加すること、同庁としてアルゼンチンが投資相手国として魅力的になるよう日本の各機関と連携していきたい旨の発言があった。

(3) 昼食会

：ゲストスピーカー ミケッティ副大統領スピーチ

昼食会では、アルゼンチン共和国副大統領ガブリエラ・ミケッティ氏がスピーチを行った。

ミケッティ氏は、外交関係 120 周年と 25 回会議開催への祝意を表し、これまでの良好な協力関係をたたえ、両国で政治経済社会の千羽鶴を折り上げてゆきたい、と述べた。また、いままで同国の政治経済が大きく混乱し、信認の喪失という負の遺産を負っていることに触れる一方で、今後は開かれた国を目指す同国の決意を信頼して投資して欲しいと訴えた。120 周年に相応しい昼食会となった。



(昼食会)

マチャード委員長、ミケッティ副大統領、小林委員長

(4) 第2回全体会議「新たなステージ - 資源・エネルギー・アグロインダストリー」



(第2回全体会議)
エcheベレ農産業大臣

ルイス・ミゲル・エcheベレ農産業大臣が基調講演を行った。本年5月に齊藤農林水産大臣と協議を行った結果、7月からパタゴニアの牛肉・羊肉輸入が解禁になること、同国が間もなく世界の6億人分の食料生産を予定し（現在4億人分）、消費者の高いニーズにこたえ、アジアへの供給を増加することが可能であるとの意見を披露した。

ダニエル・メイラン鉱業副大臣は、アルゼンチンの鉱業の可能性と日本からの投資期待につき説明。チリとの国境地域は、油田・ガス田、モリブデン、金、銅などが、パタゴニアには金銀の鉱床があり、アタカマの亜国側の豊富なリチウムの鉱床は開発が進んでおり、日本からの投資を期待すると発言した。

丸紅顧問の矢島浩一氏は、同社の穀物取引が北米・ブラジルに集荷、輸出ターミナルを有し、穀物メジャーに匹敵するが、亜国では有力地元企業との業務提携の形をとっていること、内陸輸送インフラの整備拡張が輸出競争力を高める鍵であること、電力では、1955年以来、川上から川下まで広い事業領域をカバーしており、今後も電力の安定供給のため更なる拡大に取り組みたいと発言。電力事業の信頼性と価格競争力を高めるためのビジネス環境整備、投資協定・租税条約などへの期待に言及した。

国際協力機構（JICA）のセシリア・ゴメス氏からは、JICAが同国で推進する日本オリジンの一村一品プロジェクトの紹介があった。

(5) 第3回全体会議「期待される経済協力の新時代-IT、IoTとAI」

NEC ラテンアメリカ リージョナルコンピテンスセンター長ホルヘ・バルガス氏は、同社の6つのメガトレンドをふまえた「7つの社会価値創造テーマ」への取組につき紹介、有数のAI技術群を活用し社会全体のバリューチェーンを見据えたデジタル産業革命を強力に推進したいと発表。

エヴェリス・アルゼンチン社のヴィセンテ・ペイロテン氏がからは、ラテンアメリカで多くの高付加価値のサービスを提供していること、IoT領域で、AIによりビックデータの収集、分析、新ビジネスの創造の流れをつくっていること、メンドーサでのスマートシティへの取組につき紹介があった。

アルゼンチンIBM社のステラ・ロイアコノ氏は、AIの技術への取組につき紹介。学習、理解、判断する力を持つAIは、伝統的なあり方に対する破壊的イノベーション的なもの、知能を持った有能な助手としての活用方法として確立するとの認識を示し、視覚障害者へのサポートの例等を紹介した。

JICAアルゼンチン事務所所長の三田村達宏氏は同機構が、技術協力を中心として、過去40年間、その時々の開発ニーズに対応してきたこと、80-90年代の経済政策支援（大来レポート）の流れにおいて現在カイゼンプロジェクトを実施中であり、中小企業の生産性・競争力向上の支援を行っていること、また、今後、民間ベースの協力関係の強化への触媒の役割を果たすべく、両国の企業や研究機関との連携をより深めつつ国際協力を実施していく、と述べた。



第3回全体会議の様子

(6) 閉会式

閉会式では、日本メルコスールの EPA 交渉の早期開始や、両国の投資協定、租税条約の早期締結を両国政府へ求める共同声明を採択し閉会した。

会議後、両委員会から両国政府へ共同声明を提出した。



両委員長による共同声明採択

6. 日本大使主催レセプション (5月27日)

合同会議の前夜、福嶋大使主催のレセプションが大使公邸で開催された。

福嶋大使、小林委員長、マチャード亜側委員長、アンドレス・ムルチソン農産業副大臣の挨拶の後、加瀬経団連中南米地域委員会委員長による挨拶・乾杯があり、両国経済委員会関係者が懇親を深めた。

以上



日本大使公邸でのレセプション